

(構成案)

京都市上下水道事業中期経営プラン(2023-2027)

令和●年度 京都市上下水道事業

経 営 評 価 【令和●年度事業】

令 和 ● 年 9 月



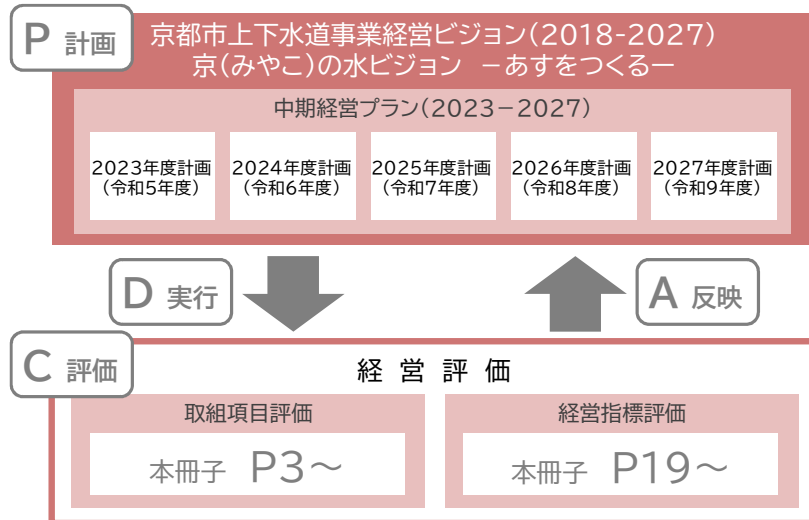
カラー版はこちらからご覧いただけます。



上下水道事業の経営管理

- 上下水道局では、平成30年3月に策定した「京都市上下水道事業経営ビジョン(2018-2027)京(みやこ)の水ビジョンーあすをつくるー」(以下、「ビジョン」という。))及びその後期5か年の実施計画「中期経営プラン(2023-2027)」(以下、「プラン」という。))に基づき事業を推進しています。
- 「上下水道事業経営評価」(以下、「経営評価」という。))は、事業の推進に当たり、適切な執行管理・継続的な改善と市民サービスの向上を図るとともに、その結果を公表することにより市民の皆さまに対する説明責任を果たし、市民の視点に立った市政の実現を図ることを目的として、毎年実施しているものです。
- 「経営評価」は、京都市政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例で義務付けられた特定分野に関する行政評価です。この行政評価制度の趣旨を踏まえ、経営戦略のPDCAサイクルのC(チェック)に位置付けており、単年度計画の1年間の成果について5段階で評価しています。
- また、水道事業、公共下水道事業それぞれのガイドラインに基づく財務指標や業務指標を用いた評価を実施し、中長期的な経営分析を行っています。

【経営評価の位置付け】



- なお、水道事業、公共下水道事業の経営・事業運営に市民や有識者等の意見を取り入れることにより、事業の客観性・透明性を高めるとともに、市民の視点に立った経営・事業運営を行うことを目的として、平成25年9月から「京都市上下水道事業経営審議委員会」を設置しています。経営審議委員会は、市民公募委員、学識経験者及び民間有識者で構成されており、経営評価の点検・評価をいただくとともに、事業の進捗状況の点検や直面する課題、広報・広聴の充実など、経営全般に対する提案・助言をいただいています。

ビジョン・プランについて詳しくはホームページをご覧ください。

2023 中期経営プラン
2027

目次

(本書の構成)	頁
上下水道局を取り巻く経営環境	1
令和●年度事業進捗状況 - HIGHLIGHTS -	2
経営評価	3
- 取組項目評価	3
・ 令和●年度の評価一覧	4
・ 令和●年度の数値目標一覧	5
・ 視点① 京の水をみらいへつなぐ	7
・ 視点② 京の水でこころをはぐくむ	13
・ 視点③ 京の水をささえつづける	15
・ 前期プラン目標に対する進捗状況	17
- 経営指標評価	19
今後の事業運営について	27

目次

経営環境・事業進捗状況

取組項目評価

経営指標評価

今後の事業運営について

上下水道局はSDGsを推進しています

SDGs(エスディージーズ)は、「誰一人取り残さない」を合言葉に、人権、格差是正、教育、環境、平和など、持続可能な社会の実現を国際社会全体で目指す17の普遍的なゴール(目標)と、169のターゲット(達成基準)であり、実現に向けて各国政府だけでなく、地方公共団体や企業等の主体的な取組が求められています。

SDGsの理念や方向性等については、ビジョン及びプラン等と共通するものであり、上下水道局は、ビジョン及びプランのもと、SDGsの達成に向けた取組を推進しています。



関連するSDGsの目標(ゴール)

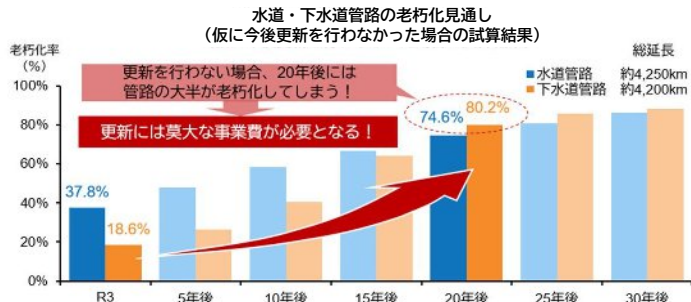


上下水道事業を取り巻く経営環境

- 上下水道事業は、独立採算制を原則とする公営企業であり、使用者の皆さまからの料金・使用料収入を基に事業を運営していますが、節水型社会の定着等により使用水量（水道：有収水量、下水道：有収汚水量）は、ピーク時（水道：平成2年度、下水道：平成9年度）と比較して△20%以上減少しています。現在は少子化傾向による人口減少局面に入っており、今後も水需要の減少が続くと見込まれます。



- 水需要の減少傾向を踏まえると、水道・下水道使用料収入はビジョン（平成30～令和9年度）の見通しと比較して、水道・下水道合わせて10年間で100億円を超える大幅な減収になると予測しています。
- その一方で、水道及び下水道の管路・施設の老朽化が進み、更新を行わない場合、管路では約70%以上が老朽化する見通しであり、今後も計画的な更新を進める必要があります。



- また、更新財源については、これまで安価な水道料金・下水道使用料を維持するため、多くを企業債（借金）に依存してきました。しかし、今後管路や施設の改築更新等を進めるに当たっては、将来世代の負担を先送りしないよう、収入の減少や支出の増大が見込まれる中でも企業債に過度に依存しないことが重要となります。
- このような厳しい経営環境においても、市民の皆さまの生活を支える重要なライフラインである水道・下水道を守り続けるため、管路・施設の改築更新・耐震化を始めとした各事業を着実に進めるとともに、業務執行体制の効率化等より一層の経営の効率化に取り組んでいます。

令和●年度の取組状況

令和●年度事業進捗状況

—HIGHLIGHTS—

- 業務執行体制の見直しや効率的な事業運営に加え、あらゆる業務の再点検と見直しを行い、令和●年度の各事業を着実に推進しました。

【視点①～方針②はこぶ】

（水道）老朽配水管の解消率

老朽化した水道配水管の更新・耐震化を実施し、解消率は47.0%（R●実績）から52.2%に向上し、目標を達成しました。

【R●実績】

47.0% → 52.2%

【視点①～方針④まもる】

10年確率降雨に対応した雨水整備率

大雨の時に雨水を取り込む雨水幹線等の整備を進め、「10年確率降雨に対応した雨水整備率は33.0%（R●実績）から33.1%に向上しました。

【R●実績】

33.0% → 33.1% ※トビックス例

【視点②～方針②ゆたかにする】

下水汚泥有効利用率

下水汚泥固形燃料化事業等により、有効利用率は目標どおり70.0%になりました。

【R●目標】

70.0% → 70.0%

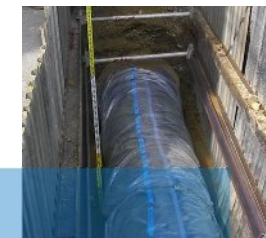
【視点③～方針②ささえる】

企業債残高の削減

組織・業務の見直しや民間活力の導入をはじめ、効率的な事業運営に努めるとともに、国の交付金等を活用したことで、目標を4,057億円上回る4,009億円削減することができました。

【R●実績】

4,057億円 → 4,009億円



水道配水管の布設工事



鳥羽第3導水きよ



鳥羽水環境保全センター固形燃料化施設

区分	R●	R●	削減額
水道	1,000億円	1,000億円	△0億円
下水道	1,000億円	1,000億円	△00億円
計	1,000億円	1,000億円	△000億円

経営評価【取組項目評価】

● 取組項目評価とは、ビジョン及びプランに掲げる3つの視点と9つの方針に連なる30の取組項目の目標水準に対する達成度について5段階で評価を行うものです。

【ビジョン及びプランの取組の構成】

【基本理念】京の水からあすをつくる

視点① 京の水をみらいへつなぐ

私たち上下水道局は、安全・安心な水道水をつくる。下水をきれいにして川へ返す、災害からまちとくらしを守るなど、水道・下水道の基本的な役割の責任をしっかりと果たしつつ、新しい技術の導入など、京の水を“みらいへつなぐ”ために、挑戦し続けます。

方針① つくる 水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

方針② はこぶ 老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

方針③ きれいにする 下水をきれいにして川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します

方針④ まもる 市民の皆さまとともに、地震や大雨などの災害から、まちとくらしを守ります

方針⑤ いどむ 新しい技術を取り入れながら、周辺地域や海外を含めた広い視野で、未来に向けた挑戦を続けます

視点② 京の水でこころをはぐくむ

私たち上下水道局は、市民の皆さまのニーズに対応したサービスを提供し、期待に応え続けることはもとより、京都ならではの「こころの創生」を重視し、文化や景観、そして地球環境に配慮した「こころをはぐくむ」事業運営に努めます。

方針① こたえる 分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待に応え続けます

方針② ゆたかにする 琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやこころをゆたかにします

視点③ 京の水をささえつづける

私たち上下水道局は、市民の皆さま、そして水道・下水道に携わる事業者の皆さまとともに、“京の水をささえつづける”ため、これまで培ってきた技術を確実に次世代へと継承しつつ、長期的な視点に立ち、安定した経営を行います。

方針① になう これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、京の水の担い手を育て、きずなを強めます

方針② ささえる 50年後、100年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます

【評価方法について】

<実施内容・目標ごとの評価基準>

6	目標値の105%以上	優れて達成されている
5	目標値の100~104%	達成されている
4	目標値の 80~99%	かなり達成されている
3	目標値の 50~79%	おおそ達成されている
2	目標値の 30~49%	あまり達成されていない
1	目標値の ~29%	達成されていない

<数値目標ごとの評価基準>

◎	7.5	目標達成以上
○	5	達成(目標値と同値)
×	2.5	未達成

工事等に係る目標については進捗率に応じて、それ以外の目標についてはその達成度合いに応じて評価を行う

《30の取組項目評価》

S 優れて達成されている

A 達成されている

B かなり達成されている

C おおそ達成されている

D あまり達成されていない

E 達成されていない

30の取組項目を構成する個々の取組の<実施内容・目標>及び<数値目標>ごとの評価結果を点数化(7.5~1)し、取組項目ごとに集約した平均値が、5.6以上→S評価 4.6~5.5→A評価 3.6~4.5→B評価 2.6~3.5→C評価 1.6~2.5→D評価 1.5以下→E評価 とする。

令和●年度の取組項目評価一覧

● 1年間の進捗に対する取組項目評価については、全体としては概ね順調に進捗したものの、一部工事の遅れ等により、30の取組項目のうちS評価(優れて達成されている)が●項目、A評価(達成されている)が●項目、B(おおむね達成されている)が●項目、C評価以下がゼロとなりました。

視点	方針	取組	評価
①京の水をみらいへつなぐ	①つくる	① 水源から蛇口までの水質管理の徹底	A
		② 原水水質の変化に対応した最適な浄水処理の推進	B
		③ 安定的に水道水をつくるための水道基幹施設の改築更新・耐震化	A
	②はこぶ	① 配水管等の適切な維持管理の推進	S
		② 安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化	
		③ 安全・安心な水道水をお届けするための給水サービスの向上	
		④ 下水道管路の適切な維持管理の推進	
		⑤ 優先度を踏まえた下水道管路の改築更新・耐震化	
		⑥ 適切に下水道をお使いいただくための啓発や勧奨	
	③きれいにする	① 下水の高度処理や適切な水質管理による処理水質の維持・向上	
		② 水環境保全センター施設の再構築	
		③ 健全な水環境を保全するための合流式下水道の改善	
	④まもる	① 「公助」としての災害に強い施設整備や危機管理体制の強化	
		② 「自助」の意識啓発や「共助」の推進による災害対応力の強化	
		③ 「雨に強いまちづくり」を実現するための浸水対策の推進	
②京の水でこころをはぐくむ	⑤いどむ	① 常に発展し続けるための新技術の調査・研究	
		② 広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮	
		③ 国際協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成	
	①こたえる	① お客さま窓口機能の充実とマーケティング機能の強化	
		② お客さまの声を反映した新たなサービスの展開	
		③ 京の上下水道を未来へ継承する広報・広聴活動の推進	
	②ゆたかにする	① 琵琶湖疏水の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献	
		② 創エネルギー・省エネルギーによる脱炭素社会の実現への貢献	
		③ 地球環境にやさしい循環型まちづくりへの貢献	
③京の水をささえつづける	①になう	① 将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上	
		② 京の水をともに支える市民・事業者の皆さまとの更なる連携	
	②ささえる	① 施設マネジメントの実践等によるライフサイクルコストの縮減	
		② 業務執行体制の見直しや民間活力の導入等による経営の効率化	
		③ 将来にわたって事業を継続していくための財務体質の更なる強化	
		④ 継続的な経営改善の推進と適正な料金施策の検討	

令和●年度数値目標の達成状況

● 数値目標24指標のうち、●指標で目標を達成しました。

区分	指標名	R4実績	R5実績 (目標)	達成 状況	R9 プラン目標
プラン全体	1 事業に対する総合満足度			×	
①京の水をみらいへつなぐ	①つなぐ			×	
	2 異臭(かび臭)のない水達成率			×	
	3 導水施設の耐震化率			-	
	4 浄水施設の耐震化率			-	
	5 配水池の耐震化率			○	
	②はらふ			◎	
	6 有収率			◎	
	7 老朽配水管の解消率			○	
	8 主要管路の耐震適合性管の割合			○	
	9 下水道管路改築・地震対策率			○	
	③はれにこころ			○	
	10 高度処理管理目標水質達成率			○	
	11 処理施設の改築更新数				
	12 合流式下水道改善率				
	④まもる				
	13 飲料水の備蓄率				
	14 雨水整備率(10年確率降雨対応)				
	⑤いどむ				
	15 新技術等の調査研究数				
②京の水の「くらし」をまもる	①いたえる				
	16 サービスの利用全般に対するお客さま満足度				
	17 インターネットを活用したサービスの利用件数				
	18 広報活動の認知度				
	②めたかにする				
	19 琵琶湖疏水記念館来館者数				
③ESGの推進	①になう				
	20 事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率(2013(平成25)年度比)				
	21 汚泥有効利用率				
	②やめよう				
	22 技術系資格保持者の割合				
	23 下水道の大規模更新に備えた積立金の残高				
	24 企業債残高				

令和7年度経営評価(令和6年度事業)冊子以降は削除

- 《数値目標・各指標の定義》
- 1 「水に関する意識調査」において京都市の水道・下水道全般について「満足」、「やや満足」と回答いただいた方の割合
 - 2 かび臭物質の濃度が管理目標値(水質基準値の50%の値)以下となる回数÷浄水場における全検査回数
 - 3 耐震対策の施された導水施設により災害時でも安定取水できる浄水場の施設能力÷全浄水場の施設能力
 - 4 耐震対策の施された浄水場の施設能力÷全浄水場の施設能力
 - 5 耐震対策の施された配水池等有効容量÷配水池等有効容量
 - 6 年間有収水量÷年間給水量
 - 7 老朽配水管(昭和34～52年に布設した耐震性に劣る初期ダクト管・鉄管)の平成21年度(更新事業開始年度)当初延長に対する更新済の延長の割合
 - 8 主要管路のうち耐震適合性のある管路延長÷主要管路延長
 - 9 対策済管路延長÷破損等のリスクが高い旧規格の管路延長
 - 10 高度処理を導入している12系列において、窒素・リンの濃度が管理目標値以下となった系列の割合
 - 11 水環境保全センター及び浄化センターにおける約600施設のうち、プランの5年間で改築更新を行う必要がある(機能低下が見込まれる)施設数
 - 12 合流式下水道改善済面積÷合流式区域面積
 - 13 「水に関する意識調査」において、「飲料水を備蓄している」と回答いただいた方の割合
 - 14 10年確率降雨(1時間あたり62ミリ)に対応した浸水対策実施済面積÷公共下水道事業計画区域面積
 - 15 共同研究、自主調査、研究発表等の実施件数の合計(5年間)
 - 16 「水に関する意識調査」においてサービスの利用全般に対する満足度について「満足」、「やや満足」と回答いただいた方の割合(「利用経験がないまたは知らない」を除く)
 - 17 インターネットを通じた開閉栓等の受付件数、使用水量閲覧サービスの申込件数等の平成30年度以降の累計件数
 - 18 「水に関する意識調査」において、イベント・ポスター等を「よく見かける」、「時々見かける」と回答いただいた方の割合
 - 19 琵琶湖疏水記念館の累計来館者数
 - 20 「京都市役所CO2削減率先実行計画<2021-2030>」に基づいて算定した平成25(2013)年度比の削減率
 - 21 有効利用した汚泥量÷総発生汚泥量
 - 22 全技術系職員のうち、業務に関係し、難易度が高い技術系資格(1級施工管理技士や技術士等)を保持している職員の割合
 - 23 公共下水道事業における将来の大規模更新に備えた積立金
 - 24 水道事業・公共下水道事業を合わせた企業債残高(翌年度への延伸分(繰越事業に係る分)を含む数値)

【次ページからの各取組項目の見方】

ビジョン・プランに掲げる3つの視点及び9つの方針

視点及び方針に関連するSDGsの目標(ゴール)

各取組項目に紐づく数値目標(※)

視点及び方針に連なる30の取組項目

今年度の実施内容及び目標

取組項目の実施状況

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針① つくる
水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります
水質管理(水道)、浄水場の改築更新や維持管理

数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
異臭(かび臭)のない水達成率	98.4%	100%		
導水施設の耐震化率	26.8%	※設定なし		
浄水施設の耐震化率	75.7%	※設定なし		
配水池の耐震化率	53.9%	※設定なし		

差し替え予定

取組① 水源から蛇口までの水質管理の徹底

最終評価 A

- 令和5年度水道水質検査計画に基づく原水及び水道水の水質検査の実施
- 令和6年度水道水質検査計画の策定
- 水道GLPに基づく精度の高い水質検査の実施
- 水安全計画の運用、見直し

年間実施状況

水質監視装置 監視画面

※ 事業が工事が完了し数値が向上する年度以外は数値目標を「設定なし」としています。

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針① つくる

水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

水質管理(水道)、浄水場の改築更新や維持管理



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
異臭(かび臭)のない水達成率	98.4%	100%		
導水施設の耐震化率	26.8%	※設定なし		
浄水施設の耐震化率	75.7%	※設定なし		
配水池の耐震化率	53.8%	※設定なし		

取組① 水源から蛇口までの水質管理の徹底

最終
評価

A

- 令和5年度水道水質検査計画に基づく原水及び水道水の水質検査の実施
- 令和6年度水道水質検査計画の策定
- 水道GLPに基づく精度の高い水質検査の実施
- 水安全計画の運用、見直し



水質監視装置 監視画面

年 間
実施状況

取組② 原水水質の変化に対応した最適な浄水処理の推進

最終
評価

A

- 高機能な粉末活性炭の注入
- 蹴上浄水場における高機能な粉末活性炭注入設備設置工事実施(R4年度事業開始・R7年度運用開始予定)
- 松ヶ崎浄水場における高機能な粉末活性炭注入設備工事着手(R5年度事業開始・R8年度運用開始予定)
- 処理プロセスの最適化、高度化に向けた検討
- 施設に関する基本情報や修理履歴等データベースの活用

年 間
実施状況

取組③ 安定的に水道水をつくるための基幹施設の改築更新・耐震化

最終
評価

A

- 新山科浄水場導水トンネル築造工事実施(H29年度事業開始・R10年度運用開始予定)
- 新山科浄水場1系浄水施設改良工事着手(R5年度事業開始・R7年度工事完了予定)
- 新山科浄水場低区1・2号配水池耐震化工事着手(R5年度事業開始・R7年度工事完了予定)

新山科導水トンネル築造工事
(トンネル掘進の様子)年 間
実施状況

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針② はこぶ

老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

水道・下水道管路の改築更新や維持管理(1)



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
有収率	91.9%	91.8%		
老朽配水管の解消率	47.8%	52.2%		
主要管路の耐震適合性管の割合	59.0%	60.3%		

取組① 配水管等の適切な維持管理の推進

最終
評価

A

- 配水管の洗浄作業(「京(みやこ)の水道管おそうじプロジェクト」)の実施
- 漏水調査の実施
(一般漏水調査 約2,300km、漏水分布調査 約7,500か所)

京の水道管おそうじプロジェクト
(消火栓操作)年 間
実施状況

取組② 安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化

最終
評価

A

- 老朽化した配水管の更新・耐震化の実施 52km
- 低区御池連絡幹線配水管 布設工事実施(H26年度事業開始・R7年度工事完了予定)
- 高区花園連絡幹線配水管 布設工事完了(H26年度事業開始・R5年度工事完了予定)
- 低区五条連絡幹線配水管 布設工事完了(R4年度事業開始・R5年度工事完了予定)



配水管工事

年 間
実施状況

取組③ 安全・安心な水道水をお届けするための給水サービスの向上

最終
評価

A

- 貯水槽水道の設置者への啓発・助言
- 直結式給水のPR
- 新規指定給水装置工事事業者を対象とした説明会の実施
- 事業者を対象とした更新制度の実施

年 間
実施状況

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針② はこぶ

老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます
水道・下水道管路の改築更新や維持管理(2)



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
下水道管路改築・地震対策率	28.1%	31.5%		

取組④ 下水道管路の適切な維持管理の推進

最終
評価

A

- 下水道管路の計画的な巡視や点検調査
- 腐食のおそれ大きい箇所(point)の点検調査 2.3km



下水道管路の巡視・点検の様子

年 間
実施状況

取組⑤ 優先度を踏まえた下水道管路の改築更新・耐震化

最終
評価

A

- 下水道管路の調査及び改築・地震対策の実施 33km



下水道管路の更生工事

年 間
実施状況

取組⑥ 適切に下水道をお使いいただくための啓発や勧奨

最終
評価

A

- 全戸訪問による水洗化勧奨の実施
- 工場・事業場への立入検査 年間1,200回以上

年 間
実施状況

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針③ きれいにする

下水をきれいにして川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します

水質管理(下水)、水環境保全センターの改築更新や維持管理



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
高度処理管理目標水質達成率	100%	100%	—	—
処理施設の改築更新数(R5-R9)	累計37施設 (H30-R4)	10施設	—	—
合流式下水道の改善率	90.1%	100%	—	—

取組① 下水の高度処理や適切な水質管理による処理水質の維持・向上

最終
評価

A

- 点検整備計画に基づく施設の定期整備の実施
- 基本情報や修繕履歴等のデータベースの運用・更新
- 水質管理計画の見直し・継続運用
- 効果的・効率的な運転管理に関する調査・研究の実施

年 間
実施状況

取組② 水環境保全センター施設の再構築

最終
評価

A

- 鳥羽水環境保全センター消毒施設運用開始
(R2年度事業開始・R5年度運用開始予定)
- 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事着手
(R5年度事業開始・R9年度運転開始予定)
- 鳥羽水環境保全センター吉祥院支所の貯留水を鳥羽水環境保全センターへ送水開始



鳥羽水環境保全センター消毒施設
(塩素混和池)

年 間
実施状況

取組③ 健全な水環境を保全するための合流式下水道の改善

最終
評価

A

- 合流式下水道改善対策施設の整備完了
- 合流式下水道改善対策施設の継続運用



貯留管による対策イメージ

年 間
実施状況

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針④ まもる

市民の皆さまとともに、自身や大雨などの災害から、まちとくらしを守ります

防災・減災対策(公助、共助・自助)や浸水対策



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
飲料水の備蓄率	61.9%	62.4%		
雨水整備率(10年確率降雨対応)	33.0%	33.1%		

取組① 「公助」としての災害に強い施設整備や危機管理体制の強化

最終
評価

A

- 各種計画、マニュアル及びBCPの運用、点検及び見直し
- 災害を想定した実践的なマニュアル運用訓練及び研修の実施
- 大都市や京都府内の自治体、民間事業者との防災訓練、情報交換の実施
- ICTを活用した防災・危機管理情報の発信方法の検討
- 災害用マンホールトイレの継続的な整備
- 仮設給水槽の増台 10基
- 防災拠点等への仮設給水槽の配備、運用



マンホールトイレ
(左上は設置時の様子)

年 間
実施状況

取組② 「自助」の意識啓発や「共助」の推進による災害対応力の強化

最終
評価

A

- 災害用備蓄飲料水の積極的かつ効果的な啓発活動
- 自助に関する情報発信の充実及び強化
- 各区役所・支所と連携した自主防災組織への防災研修の実施
- 各行政区、学区、地域等が主催する防災訓練への参加
- 共助に関する情報発信の充実及び強化

年 間
実施状況

取組③ 「雨に強いまちづくり」を実現するための浸水対策の推進

最終
評価

A

- 鳥羽第3導水きょ工事実施(R2年度事業開始・R9年度運用開始予定)
- 烏丸丸太町幹線工事実施(R2年度事業開始・R7年度運用開始予定)
- 伏見水環境保全センター雨水滞水池工事実施(R2年度事業開始・R6年度運用開始予定)
- 雨水貯留施設及び雨水浸透ますの普及促進
- 関係局区が連携した雨に強いまちづくりの取組の推進



鳥羽第3導水きょ
(発進立坑)

年 間
実施状況

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針⑤ いどむ

新しい技術を取り入れながら、周辺地域や海外を含めた広い視野で、未来に向けた挑戦を続けます

新技術の調査・研究、広域化・広域連携等



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
新技術の調査研究件数	23件	30件	—	—

取組① 常に発展し続けるための新技術の調査・研究

最終
評価

A

- 新技術の調査・研究の実施
- 外部機関との共同研究の局ホームページによる募集、実施
- 各研究発表会(全国水道研究発表会、全国下水道研究発表会等)や論文掲載等での研究成果の発信



高画質カメラによる調査試行状況

年 間
実施状況

取組② 広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮

最終
評価

A

- 「京都市水道ブランドデザイン」等関連計画に基づく広域化の在り方の検討
- 広域連携の取組の推進(共同研修、水質検査の受託、資機材の相互融通に向けた検討)
- 大都市や京都府内の自治体、民間事業者との防災訓練、情報交換の実施【視点①-方針④-取組①再掲】
- 上弓削農業集落排水事業の京北特定環境保全公共下水道事業への統合に向けた産業観光局との連携
- 琵琶湖・淀川流域都市間の協議会等への参画

年 間
実施状況

取組③ 国際協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成

最終
評価

A

- JICA等を通じた海外からの研修・視察等の受入れ
- 他都市との情報交換等の実施
- 職員の知識・技術力の向上(JICA能力強化研修等への受講機会の設定等)

年 間
実施状況

視点② 京の水でところをはぐくむ

方針① こたえる

分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待にこたえ続けます

お客さまサービス、広報・広聴活動



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
サービスの利用全般に対するお客さま満足度	—	70%以上		
インターネットを活用したサービスの利用件数	44,362件	40,000件		
広報活動の認知度	25.2%	30.0%		

取組① お客さま窓口機能の充実とマーケティング機能の強化

最終
評価

A

- 大口利用者利用状況調査による新たなサービスに関するニーズの調査、地下水等利用専用水道利用者への訪問・ヒアリング
- お客さま対応研修の実施・ご意見メール等への対応

年 間
実施状況

取組② お客さまの声を反映した新たなサービスの展開

最終
評価

A

- 請求及び支払いのデジタル化によるペーパーレス推進
- 新たなサービス(スマホアプリなど)の導入検討・構築
- お客さま対応デジタル化の調査・研究
- 水道スマートメーターに関する調査・研究

年 間
実施状況

取組③ 京の上下水道を未来へ継承する広報・広聴活動の推進

最終
評価

A

- 広報・広聴戦略に基づく、上下水道事業への理解促進につながるイベント等の実施、広報紙の各戸配布
- お風呂入浴PR、給水スポット利用促進
- クロスメディア広報の展開
- オンラインを活用したモニター制度等の実施



「水道週間」街頭キャンペーン

年 間
実施状況

視点② 京の水でところをはぐくむ

方針② ゆたかにする

琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやところをゆたかにします

文化や景観、地球環境に配慮した事業運営



数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
琵琶湖疏水記念館来館者数	8.3万人	15.6万人	—	—
事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率(H25比)	36.8%	32.7%	—	—
汚泥有効利用率	67.1%	70.0%	—	—

取組① 琵琶湖疏水の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献

最終
評価

A

- 疏水路の維持管理・整備
- びわ湖疏水船航路延伸に向けた、4隻目となる新船建造
- 疏水船スタッフの育成等の運営支援及び市民乗船会等
- 琵琶湖疏水関連施設の魅力向上策及び整備推進等
- 琵琶湖疏水記念館における賑わい創出に向けた整備



琵琶湖疏水記念館テラス整備イメージ

年 間
実施状況

取組② 創エネルギー・省エネルギーによる脱炭素社会の実現への貢献

最終
評価

A

- 省エネ・高効率機器の採用、照明のLED化による使用電力の削減
- 太陽光発電等の創エネルギーの取組の継続的運用
- 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事着手【視点①-方針③-取組②再掲】
- 環境マネジメントシステムの継続的運用
- 環境報告書の発行

年 間
実施状況

取組③ 地球環境にやさしい循環型まちづくりへの貢献

最終
評価

A

- 固形燃料及び消化ガスの有効活用
- 焼却灰等の有効利用
- 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事着手【視点①-方針③-取組②再掲】

年 間
実施状況

視点③ 京の水をささえつづける				
方針① になう これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、京の水の担い手を育て、さすなを強めます 職員の育成、市民・事業者の皆さまとの連携				
数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
技術系資格保持者の割合	40.2%	42.0%		

取組① 将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上		最終評価	A
○ 中堅・若手職員に向けた体系的な技術研修の実施（年間延べ受講者数500人） ○ e-ラーニングの効果的な活用（技術研修受講者への確認テストの平均点90点） ○ 災害対応力やデジタル力向上に資する実践的な研修、資格取得支援制度の拡充 ○ 若手職員の活発な交流機会の創出 ○ コンプライアンス研修の実施 ○ OJTを強化する取組や人事交流の推進 ○ 働き方改革の推進			
年間実施状況	 中堅・若手職員に向けた技術研修の様子		

取組② 京の水をともに支える市民・事業者の皆さまとの更なる連携		最終評価	A
○ 水道・下水道のご利用等に係る情報発信 ○ 市民・事業者による水道技術研修施設の活用 ○ オープンデータの取組の推進 ○ 公契約基本条例に基づく取組の推進 ○ 緊急対応業務等の上下水道サービス協会への委託（継続） ○ 上下水道サービス協会との災害時協定書の見直し			
年間実施状況	 検針時配布リーフレット		

視点③ 京の水をささえつづける				
方針② ささえる 50年後、100年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます 事業の効率化など、長期的な視点に立った経営				
数値目標	R4実績	R5目標	R5実績	達成状況
下水道の大規模更新に備えた積立金の残高	42.1億円	60.5億円		
企業債残高	4,056億円	4,009億円		

取組① 施設マネジメントの実践等によるライフサイクルコストの縮減		最終評価	A
○ 管路及び施設等に関する情報のデジタル化の推進 ○ 優先順位を踏まえた建設事業計画の作成・実施 ○ 工事検査の手法改善の継続実施 ○ 管路の事業量・事業費の更なる平準化に向けた調査・検討 ○ 庁舎長期修繕計画に基づく修繕の実施			
年間実施状況			
取組② 業務執行体制の見直しや民間活力の導入等による経営の効率化		最終評価	A
○ 第7期効率化推進計画に基づく組織・業務の再編、職員定数の削減（△37人） ○ 民間活力の導入の推進（給水装置関連業務等の委託化） ○ 新技術の導入に向けた調査・研究 ○ デジタル技術を活用した業務の効率化 ○ 業務システム用サーバ仮想化の実施			
年間実施状況			
取組③ 将来にわたって事業を持続していくための財務体質の更なる強化		最終評価	A
○ 資産維持費の活用等による企業債の発行抑制及びこれによる支払利息の削減 ○ 下水道大規模更新等に備えた積立金の確保 ○ 保有資産の有効活用の検討及び売却・貸付の推進 ○ 新たな収入源の検討 ○ 一般会計からの繰入金（出資金）の休止 ○ 上下水道局旧日本庁舎跡地の暫定活用			
年間実施状況			
取組④ 継続的な経営改善の推進と適正な料金施策の検討		最終評価	A
○ 単年度事業計画の策定・実践及び進捗管理 ○ 経営審議委員会等の意見を踏まえた経営評価制度の充実及び実施 ○ 水道施設維持負担金制度の運用 ○ 将来を見据えた適正な水道料金・下水道使用料の在り方の検討 ○ 経営状況に係る情報発信			
年間実施状況			

プラン目標に対する進捗状況

視点	方針	プラン最終年度(令和9年度末)の目標	令和●年度までの進捗状況
①京の水をみらいへつなぐ	①つなぐ	取組① 水源から蛇口までの水質管理の徹底 ・「水道GLP」の認定更新	順調に進捗
		取組② 原水水質の変化に対応した最適な浄水処理の推進 ・異臭(かび臭)のない水達成率 100% ・職上、松ヶ崎各浄水場における粉末活性炭注入設備設置工事完了	異臭(かび臭)のない水達成率 ●% 工事に着手
		取組③ 安定的に水道水をつくるための水道基幹施設の改築更新・耐震化 ・導水施設の耐震化率 62% ・浄水施設の耐震化率 100% ・配水池の耐震化率 69%	導水施設の耐震化率 ●% 浄水施設の耐震化率 ●% 配水池の耐震化率 ●%
	②つなぐ	取組① 配水管等の適切な維持管理の推進 ・有取率 92.0%	
		取組② 安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化 ・老朽配水管の解消率 74% ・要更新の配水管の割合が平成25年度に比べて約半減した	
		取組③ 健全・安心な水道水を供給するための給水サービスの向上 ・貯水槽水道の設置者への啓発活動の継続実施 (調査対象設置者を概ね一巡)	
		取組④ 下水道管路の適切な維持管理の推進 ・データベースを活用した効果的・効率的な維持管理の継続実施	
		取組⑤ 優先度を踏まえた下水道管路の改築更新・耐震化 ・下水道管路改築・地震対策率 44%	
		取組⑥ 適切に下水道をお使いいただくための啓発や勧奨 ・全戸訪問に水洗化勧奨の継続実施 ・事業場への立入による監視及び指導の継続実施	
	③きれいにする	取組① 下水の高度処理や適切な水質管理による処理水質の維持・向上 ・データベースを活用した効果的・効率的な維持管理の継続実施 ・高度処理管理目標水質達成率 100%	
		取組② 水環境保全センター施設の再構築 ・処理施設の改築更新数(令和5～9年度) 31施設	
		取組③ 健全な水環境を保全するための合流式下水道の改善 ・合流式下水道改善率 100%	
	④まもる	取組① 「公助」としての災害に強い施設整備や危機管理体制の強化 ・各種計画の点検・見直し、実践的なマニュアル運用訓練等による災害対応力の向上	
		取組② 「自助」の意識啓発や「共助」の推進による災害対応力の強化 ・飲料水の備蓄率 65%	
		取組③ 「雨に強いまちづくり」を実現するための浸水対策の推進 ・雨水整備率(10年確率降雨対応) 40%	

令和7年度経営評価(令和6年度事業)
冊子から掲載予定

	順調に進捗した		概ね順調に進捗した		進捗に遅れがあった
--	---------	--	-----------	--	-----------

視点	方針	プラン最終年度(令和9年度末)の目標	令和●年度までの進捗状況
①京の水をみらいへつなぐ	①つなぐ	取組① 常に発展し続けるための ・新技術の調査研究件数(令和5～9年度) 150件	
		取組② 広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮 ・京都府及び周辺自治体との広域連携の推進及び更なる連携の検討	
		取組③ 国際協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成 ・JICA等を通じた海外からの受入れの継続と国際協力をはじめとした国際的な取組の検討	
	②つなぐ	取組① お客さま窓口機能の充実とマーケティング機能の強化 ・サービスの利用全般に対するお客さま満足度 70%を維持	
		取組② お客さまの声を反映した新たなサービスの展開 ・インターネットを利用したサービスの利用件数 累計25万件	
		取組③ 琵琶湖疏水の魅力を発信する広報活動の推進 ・広報活動・媒体の認知度 100%	
		取組① 琵琶湖疏水の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献 ・琵琶湖疏水記念館来館者数 累計370万人	
		取組② 創エネルギー・省エネルギーによる脱炭素社会の実現への貢献 ・事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率(平成25年度比) 39%	
		取組③ 地球環境にやさしい循環型まちづくりへの貢献 ・汚泥有効利用率 75%以上を維持	
	③きれいにする	取組① 将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上 ・技術系資格保持者の割合 50%	
		取組② 京の水をともに支える市民・事業者の皆さまとの更なる連携 ・市民・事業者の皆さまと連携した取組の更なる推進	
		取組③ 施設マネジメントの実践等によるライフサイクルコストの削減 ・施設マネジメントの更なる推進や工事検査の手法改善によるライフサイクルコストの削減	
	④まもる	取組② 業務執行体制の見直しや民間活力の導入等による経営の効率化 ・職員定数の削減 △125人(令和4年度比)	
		取組③ 将来にわたって事業を継続していくための財務体質の更なる強化 ・企業債残高 3,800億円 ・下水道の大規模更新に備えた積立金の残高 160億円	
		取組④ 継続的な経営改善の推進と適正な料金施策の検討 ・経営評価制度の充実(より適切な経営指標の検討等) ・将来を見据えた適正な水道料金・下水道使用料の在り方の検討	

令和7年度経営評価(令和6年度事業)
冊子から掲載予定

経営評価【経営指標評価】

- 経営指標評価は、収益や支出、水量等の数値を組み合わせて指標を算出することにより、上下水道事業の中長期的な経営の状況を把握・分析することを目的に行っているものです。
- 本冊子では、前年度数値との比較を行う「指標値の前年度比較」と、偏差値を用いて大都市平均との比較を行う「大都市比較から見る京都市の特徴」により、経営の状況を把握・分析しています。
- 指標については、総務省の「経営比較分析表」に用いられているもののほか、上下水道サービスの国際規格である「水道事業ガイドライン」及び「下水道維持管理サービス向上のためのガイドライン」から選定しています。

【評価区分】

① 収益性

（評価のポイント）

独立採算により運営している京都市の水道事業、公共下水道事業において、水道料金や下水道使用料等による収益性を見ることで、経営状況を判断することができます。

評価要素	業務指標名		R●実績	
	水道	下水道	水道	下水道
収支の均衡	経常収支比率		112.8%	107.7%
料金と費用の均衡	料金回収率	経費回収率	102.6%	110.4%
資産の効率性	固定資産回転率		0.084回	0.059回

② 資産・財務

（評価のポイント）

水道水を供給するには大規模な浄水場や配水管等が、汚水や雨水を処理するには大規模な処理場や下水道管等が必要です。これらの重要な施設を維持し、安定した事業運営を継続して行うため、資産・財務について把握することが重要です。

評価要素	業務指標名		R●実績	
	水道	下水道	水道	下水道
投資資本と再投資のバランス／経営の安定性	企業債償還元金対減価償却費比率	固定資産対長期資本比率	85.5%	102.1%
企業債が資金収支に及ぼす影響	給水収益に対する企業債残高の割合	企業債残高対事業規模比率	588.3%	439.1%
財務の健全性	自己資本構成比率		51.5%	61.9%
短期債務に対する支払能力	流動比率		69.7%	49.8%
経営の健全化	累積欠損金比率		0.0%	0.0%

③ 老朽化対策

（評価のポイント）

水道・下水道施設の老朽化の状況を把握することで、将来の施設の改築等の必要性を判断することができます。

評価要素	業務指標名		R●実績	
	水道	下水道	水道	下水道
有形固定資産の減価償却の進行度	有形固定資産減価償却率		47.9%	56.0%
法定耐用年数を超過した管路・管きょの割合	法定耐用年数超過管路率	施設の経年化率（管きょ）	38.6%	19.9%
管路（管きょ）の更新ペース	管路の更新率	管きょ改善率	1.3%	0.3%

④ 施設の効率性

（評価のポイント）

水道・下水道の施設能力に対する利用状況や稼働率を把握することにより、施設規模の適正化といった、経営効率を高める施策の必要性を判断することができます。

評価要素	業務指標名		R●実績	
	水道	下水道	水道	下水道
水道・下水道施設の効率性	施設利用率		64.4%	58.7%
	最大稼働率		71.9%	88.3%
有形固定資産に対する施設の効率性	固定資産使用効率		5.2㎡/万円	4.84㎡/万円
配水量・汚水処理水量のうち収益になるものの割合	有収率		91.9%	60.0%
水洗化の割合	—	水洗化率	—	99.4%

⑤ 生産性

（評価のポイント）

生産性を把握することにより、事業が効率的に運営されているか検証することができます。

評価要素	業務指標名		R●実績	
	水道	下水道	水道	下水道
料金・使用料収入を基準とした生産性	職員1人当たり給水収益	職員1人当たり使用料収入	45,456千円/人	55,087千円/人
水道・下水道サービス全般の効率性	職員1人当たり有収水量	職員1人当たり有収汚水量	276千㎡/人	462千㎡/人
	職員1人当たり配水量	職員1人当たり総処理水量	300千㎡/人	851千㎡/人

⑥ 料金・使用料

（評価のポイント）

料金・使用料の水準がお客さまの負担に配慮したものとなっているか検証します。

評価要素	業務指標名		R●実績	
	水道	下水道	水道	下水道
1㎡当たりの料金・使用料収入	供給単価	使用料単価	164.8円/㎡	119.3%
使用者の経済的利便性	1か月10㎡当たり家庭用料金	1か月10㎡当たり家庭用使用料	970円	700円
	1か月20㎡当たり家庭用料金	1か月20㎡当たり家庭用使用料	2,740円	1,830円

⑦ 費用

（評価のポイント）

上下水道事業の運営には、施設・管路等の維持管理費や減価償却費、施設・管路等を建設するために借りた資金の利息など、様々な経費が必要となります。効率的な事業運営をするうえで、費用が適切な水準にあるかどうかを検証することができます。

評価要素	業務指標名		R●実績	
	水道	下水道	水道	下水道
1㎡当たりの費用	給水原価	汚水処理原価	160.6円/㎡	108.1円/㎡

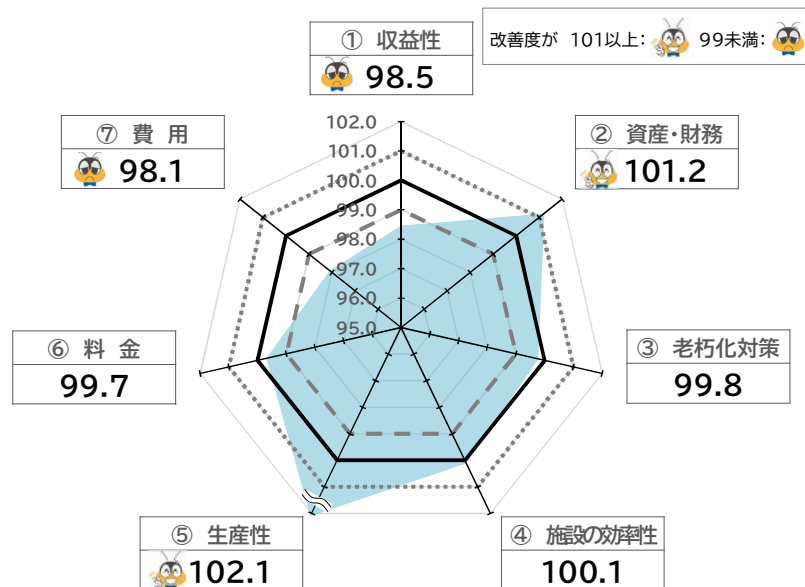


各指標の定義などの詳細については、ホームページに掲載されている詳細版の冊子で解説しています。



(1) 水道事業

ア 前年度比較 … 前年度を100(実践 —)として、改善度を示しています。

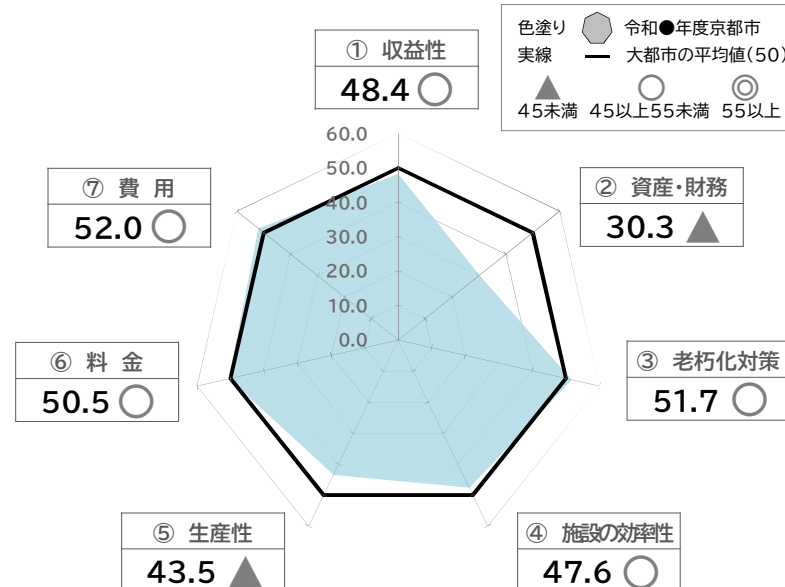


【前年度比較に係る考察】

- 令和●年度は、企業債残高の削減を進めたことや、資本金の増加等により、前年度と比べ「② 資産・財務」が改善しました。また、職員数の削減により「⑤ 生産性」も改善しました。
- 一方で、電気料金をはじめとする物価高騰の影響等により経常費用が増加したことから、「① 収益性」と「⑦ 費用」が悪化しました。
- その他の区分については、おおむね横ばいとなりました。

区 分	主な改善要因
② 資産・財務	・給水収益に対する企業債残高の割合〔企業債残高÷給水収益〕 R●は前年度から△13.2pt改善し、588.3%となった ・自己資本構成比率〔資本金等÷負債・資本合計〕 R●は前年度から+0.7pt向上し51.5%となった
⑤ 生産性	・職員1人当たり給水収益〔給水収益÷損益勘定所属職員数〕 R●は前年度から+1,176pt向上し45,456千円/人となった ・職員1人当たり有収水量〔年間有収水量÷損益勘定所属職員数〕 R●は前年度から+5pt向上し276千㎡/人となった
区 分	主な悪化要因
① 収益性	・経常収支比率〔経常収益÷経常費用〕 R●は前年度から△1.4pt低下し、112.8%となった
⑦ 費用	・給水原価〔(経常費用－受託工事費等)÷有収水量〕 R●は前年度から+1.5pt/㎡上がり(悪化)、164.8円/㎡となった

イ 大都市比較 … 京都市と大都市平均の状況を評価区分ごとに偏差値を算出し、比較しています。



【大都市比較に係る考察】

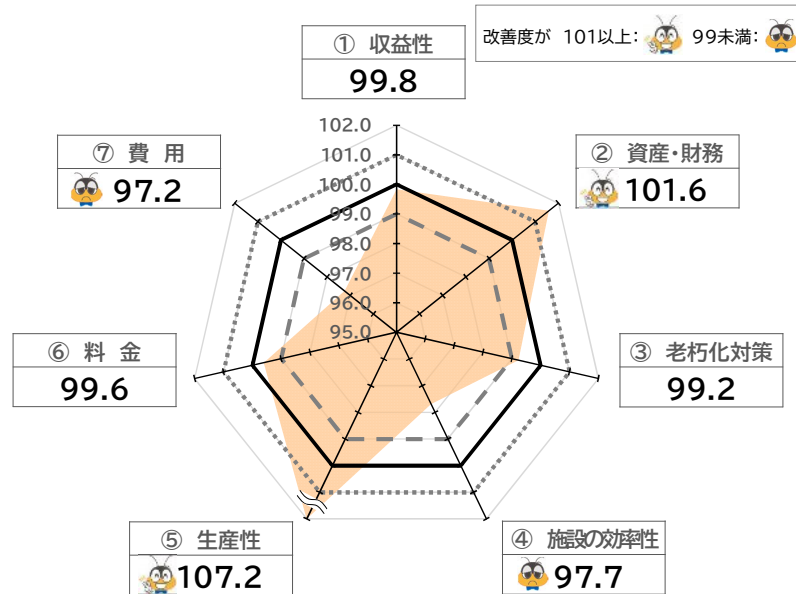
- 本市は、水道料金を低く抑えるため、管路や施設の改築更新の財源の多くを企業債に依存してきたことから、他都市と比較すると「② 資産・財務」が低い傾向があります。
- また、大都市のうち11都市が他の事業体から水道水を受水しているのに対し、本市は大半を琵琶湖からの自己水源により原水を取水しているなど、事業の運営形態の違い等により「⑤ 生産性」が低くなっています。
- そのような中、配水管更新の推進等により「③ 老朽化対策」を進める一方、効率的な事業運営に努めることで、少ない「⑦ 費用」で水を供給し大都市平均並みの「① 収益性」と「⑥ 料金」を維持しています。

<総括> 令和●年度水道事業

- 他都市と比較して低い「②資産・財務」については、特に「給水収益に対する企業債残高の割合」が高いものの、企業債残高の削減を進めており、令和●年度は前年度と比べ改善しました。また、「⑤生産性」については、経営の効率化を進めており、令和●年度は前年度と比べ、改善しました。
- 一方で、物価高騰等の影響による物件費の増加に伴い、「①収益性」及び「⑦費用」が悪化しており、財務面では厳しい状況となっています。
- 今後も引き続き、企業債残高の削減等により「②資産・財務」の向上に努めることで安定的な事業経営を進めるとともに、更なる経営の効率化を進め、「⑤生産性」の向上に努めてまいります。

(2) 公共下水道事業

ア 前年度比較 … 前年度を100(実践 —)として、改善度を示しています。

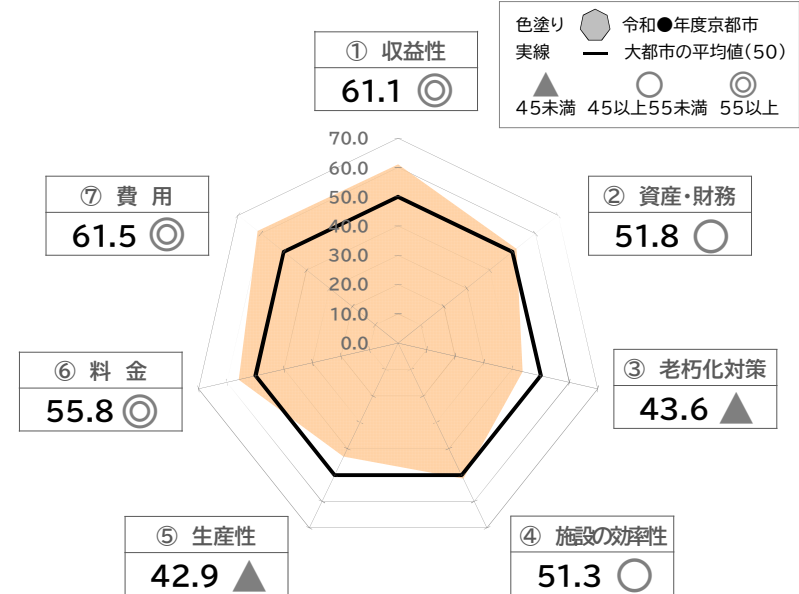


【前年度比較に係る考察】

- 令和●年度は●●の影響による～～の増加に伴い…。

区 分	主な改善要因
② 資産・財務	・企業債残高対事業規模比率[企業債残高÷給水収益] R●は前年度から△16.7pt改善し、439.1%となった ・職員1人当たり有収水量[年間有収水量÷損益勘定所属職員数] R●は前年度から+42pt改善し、462千m³/人となった
⑤ 生産性	・職員1人当たり給水収益[給水収益÷損益勘定所属職員数] R●は前年度から+1,176pt向上し45,456千円/人となった ・職員1人当たり有収水量[年間有収水量÷損益勘定所属職員数] R●は前年度から+5pt向上し276千m³/人となった
区 分	主な悪化要因
④ 施設の効率性	・最大稼働率[1日最大処理量÷処理能力] R●は前年度から△7.8pt低下し、88.3%となった
⑦ 費用	・汚水処理原価[汚水処理費÷年間有収汚水量] R●は前年度から+2.9pt/m³上がり(悪化)、108.1円/m³となった

イ 大都市比較 … 京都市と大都市平均の状況を評価区分ごとに偏差値を算出し、比較しています。



【大都市比較に係る考察】

- 本市は他都市と比較すると●●●のため、…が低くなる傾向があり～～～。
- ～～～～。

<総括> 令和●年度公共下水道事業

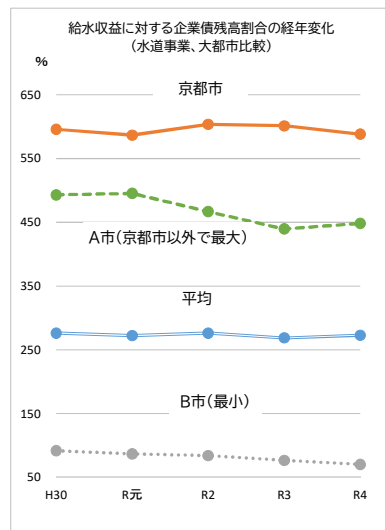
- 他都市と比較して低い「③ 老朽化対策」については、「施設の経年比率(管きょ)」が徐々に上昇傾向にあります。
- また、同様の「⑤ 生産性」については、経営の効率化を進めることで「職員1人当たり有収汚水量」が改善傾向にあります。
- 今後も効率化推進計画を着実に推進し、更なる経営の効率化に努めるとともに、布設替えや管更生を進めることで、優先度を踏まえた改築更新を推進していきます。

参考 主な指標の5か年の推移

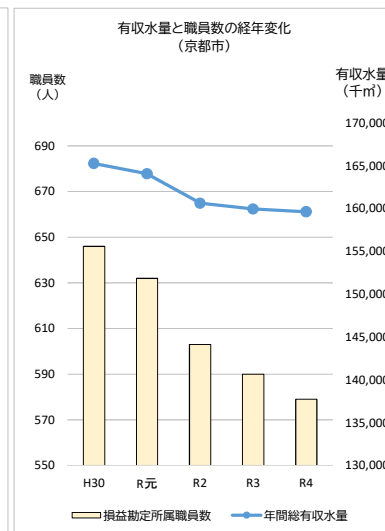
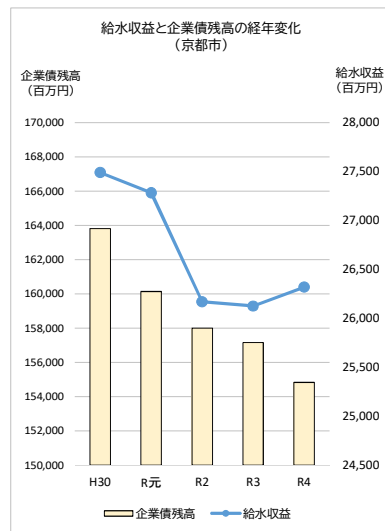
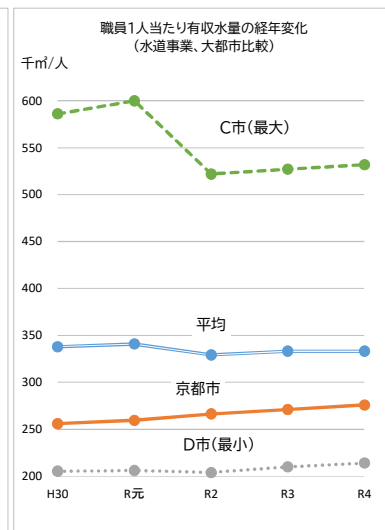
大都市平均と比較した場合に本市で低くなっている評価区分のうち、主な指標について、経年での大都市比較と、本市の指標を構成する数値の推移をグラフ化しています。

(1) 水道事業

② 資産・財務

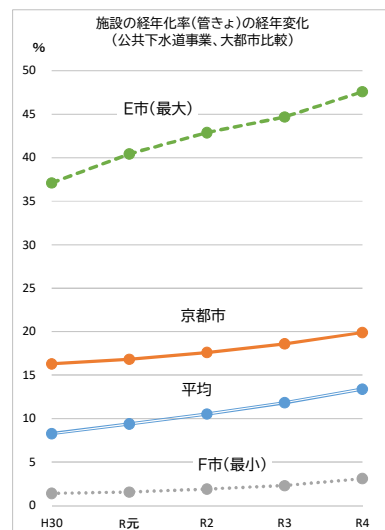


⑤ 生産性

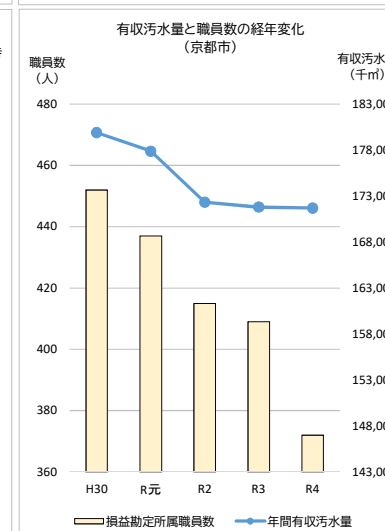
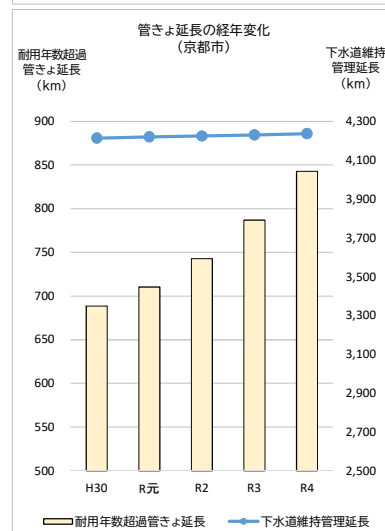
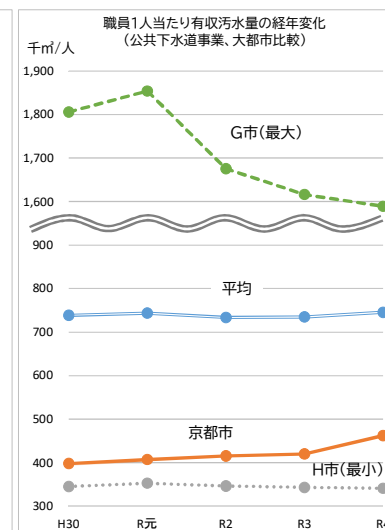


(2) 公共下水道事業

③ 老朽化対策



⑤ 生産性



今後の事業運営について

目次

経営環境・
事業進捗状況

取組項目評価

経営指標評価

今後の事業
運営について